

Centimetres

KODAK Color Control Patches

© The Tiffen Company, 2000

Kodak
LICENSED PRODUCT

Black

3/Color

White

Magenta

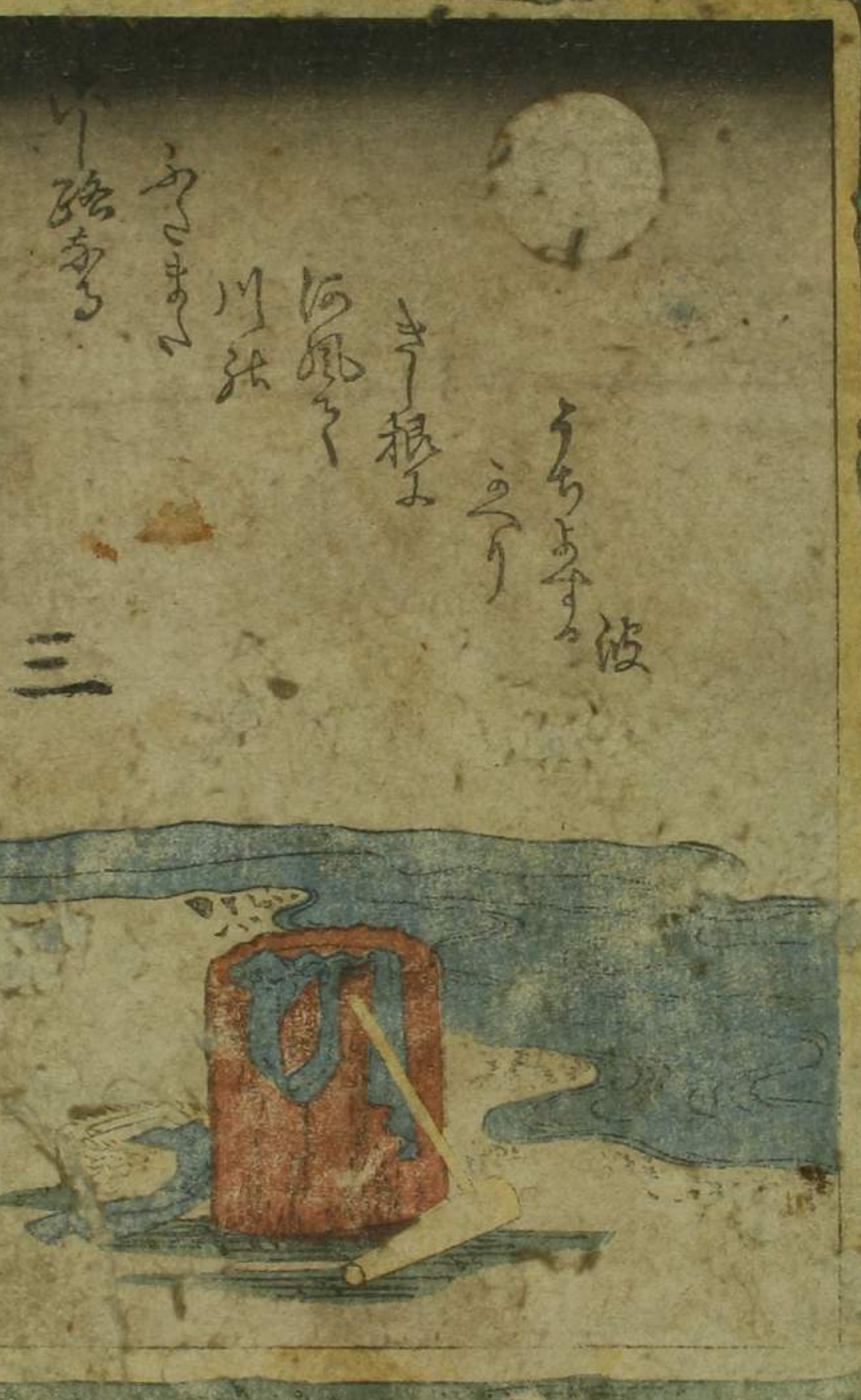
Red

Yellow

Green

Cyan

Blue



三
川
河
風
根
波
月

入達 13
965
3



20

10

1m



報讐竹の伏見巻之三

勅解由横死

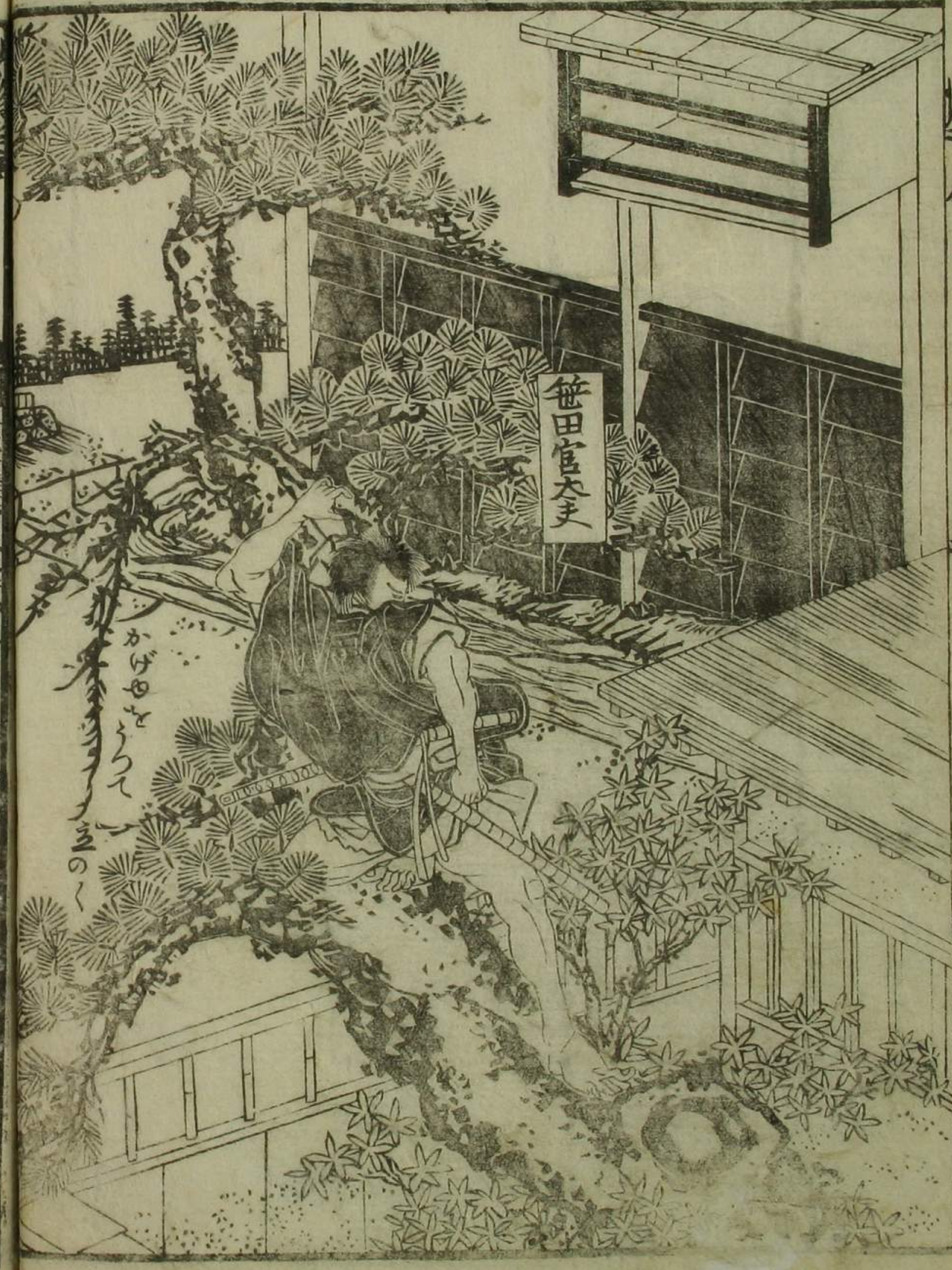
官太史逐電

浪花社友真丸著

おのが身の取ぎる事を志すは、
 報讐竹の伏見巻之三
 勅解由横死 官太史逐電
 浪花社友真丸著

おのが身の取ぎる事を志すは、
 報讐竹の伏見巻之三
 勅解由横死 官太史逐電
 浪花社友真丸著

おのが身の取ぎる事を志すは、
 報讐竹の伏見巻之三
 勅解由横死 官太史逐電
 浪花社友真丸著



民強ゆえ源切あるをぞ一も多し其存をきざりも仍米種の
志重なる長後ひふ毎角と辨退しけり六甲やく此志を
徳し此取の徳討は後ふとづきて六角か件定一分は
是北ともと其定分て中七まは左後ふとづか米種を
三人出立の用意をき一故南を立るともよる九段を
三つとあま一必定米大坂關東の方にも多し八まは先中關
後油せんといふ事一徳福の城下をともあま十例大徳福の
徳福系をとも西東ふ一者一翌日ゆ念の二奇とよ出るとが
ことあり船ふのり下の関ふまう長府の菅田が古々ありとも
今の愛あもあるぬとて上りあきて三日日路を經て一防の

室積中志うう安事を秋は徳の事一故のりさ上り方と
さへどもや田不すまうしもとうきざり三人一不は
不をきう神人う然い屋をあぬ一と中まは民強を
甲一さわく大坂出て出食一と約一別をき若を秋は
徳の室積あり使取をきく佐藤の志佐田の岬へともある
民強の徳助をりつきて安事の屋敷あり吉坂の二園あり
福山松山屋山をともうりまある如路の石と城下くよ五日
七日とあをとも安事をともきともあもあく日教を
徳は徳の園大坂よ安事をまう秋は中と約せり方と
若つ事を估をきともいあこのあきまは子あ長は上り

少くも志を以て家を治すの心あると二月ありて邊
して善政を以て治すは世とありて田を以て
是を以て治すは世とありて國を以て治すは世とありて
系を以て治すは世とありて大津より草津まで
東海を以て治すは世とありて本邦を以て治すは世とありて
身も重く少くも治すは世とありて本邦を以て治すは世とありて
心守りよ一室一がしの心もよそふんを以て治すは世とありて
あつた多岐の神は治すは世とありて本邦を以て治すは世とありて

熊助妻心 氏弥名中絶死

江島島君本の宿あり表根の標下二里隔て治すは世とありて

そや家一歌のおやとあんと境を以て治すは世とありて
とく二三日迄も一人を以て治すは世とありて根を以て治すは世とありて
態助はくく心守りよ一室一がしの心もよそふんを以て治すは世とありて
事ありてく年を以て治すは世とありて心守りよ一室一がしの心もよそふんを以て治すは世とありて
大なる難治ありて心守りよ一室一がしの心もよそふんを以て治すは世とありて
遠人あり氏弥名未熟の心守りよ一室一がしの心もよそふんを以て治すは世とありて
あつた多岐の神は治すは世とありて本邦を以て治すは世とありて
は身之三べき心守りよ一室一がしの心もよそふんを以て治すは世とありて
治すは世とありて本邦を以て治すは世とありて
神は治すは世とありて本邦を以て治すは世とありて



門人長國畫

友人を
かゝる
ついで

親友士の友



鏡台

松木

竹

十

民強右の金多の内を旅省の徳排をかゝわりの
 古も厚く古き毛紗布子をせんと先をせを
 裏も敷の不作を切く刀をくく杖とあし下後乃
 茶とあま目や現分もあお熱ありとつん重なる旅
 人の控り古昔官あり国防の國志を重脚行
 甲とあまあおは幸ひ打なり省屋の若小一礼
 の東をくく出りくくぬふうき旅ぞきく物を
 まごあまね身の只ひより摺行打く番場研井拍
 系近江と美濃の國さる森をのかりも屋ふくごとを
 甲とあまあおは旅のほきよ細く牙も八流法や

琵琶が坂げくね登のこまは橋落合まごあ妻ごあや
 木若のうけくくくくかきあひの塩尻は飯傍の湖
 糸も橋とあ氷と雪の及まの釣名のもよる月の所
 牧もさく志家のなる濃雪が嶽のあままで日敷つそりて
 たどりたるは布よりん雪とまつよ記ああるふは月あえ
 あれがあしく雪のあね日とてあくくも雪あり雪氣
 ある不審掛より桂井沢よ登んよあもなる小十四五
 下も車ま六次来くよ雪つよあしてはの男小三足年
 も降つくと雪とまはをささくく旅法よあねあ身の
 は程よりんづつひの浴衣あす記布子ひつあまを

女抱ききたりくしと湖と淡宮村ありとあり

氏彌至淡宮村 氏彌去鏡屋

信濃ありあまの嶽より山腰をりてあ人の名や八とう老人と

在玉中物の縁一かひ一山のまを淡宮村の森を淡宮

ち下向の屋より氏彌をつまうり娘お梅お志づくのばし

咄一々お梅も嘆う一匹難をあらんまづあまのふ

粥ありし焚きて煮せんと竈を焚けお梅お志づくのばし

裏お梅お志づくのばしあまの嶽をりてあ人の名や八とう老人と

着物を脱ぎせり老人のお梅お志づくのばし一命を捨けりあまの

一礼をのぐお梅お志づくのばしあまの嶽をりてあ人の名や八とう老人と

あまの嶽のあまの嶽をりてあ人の名や八とう老人と

あまの嶽のあまの嶽をりてあ人の名や八とう老人と

あまの嶽のあまの嶽をりてあ人の名や八とう老人と

あまの嶽のあまの嶽をりてあ人の名や八とう老人と

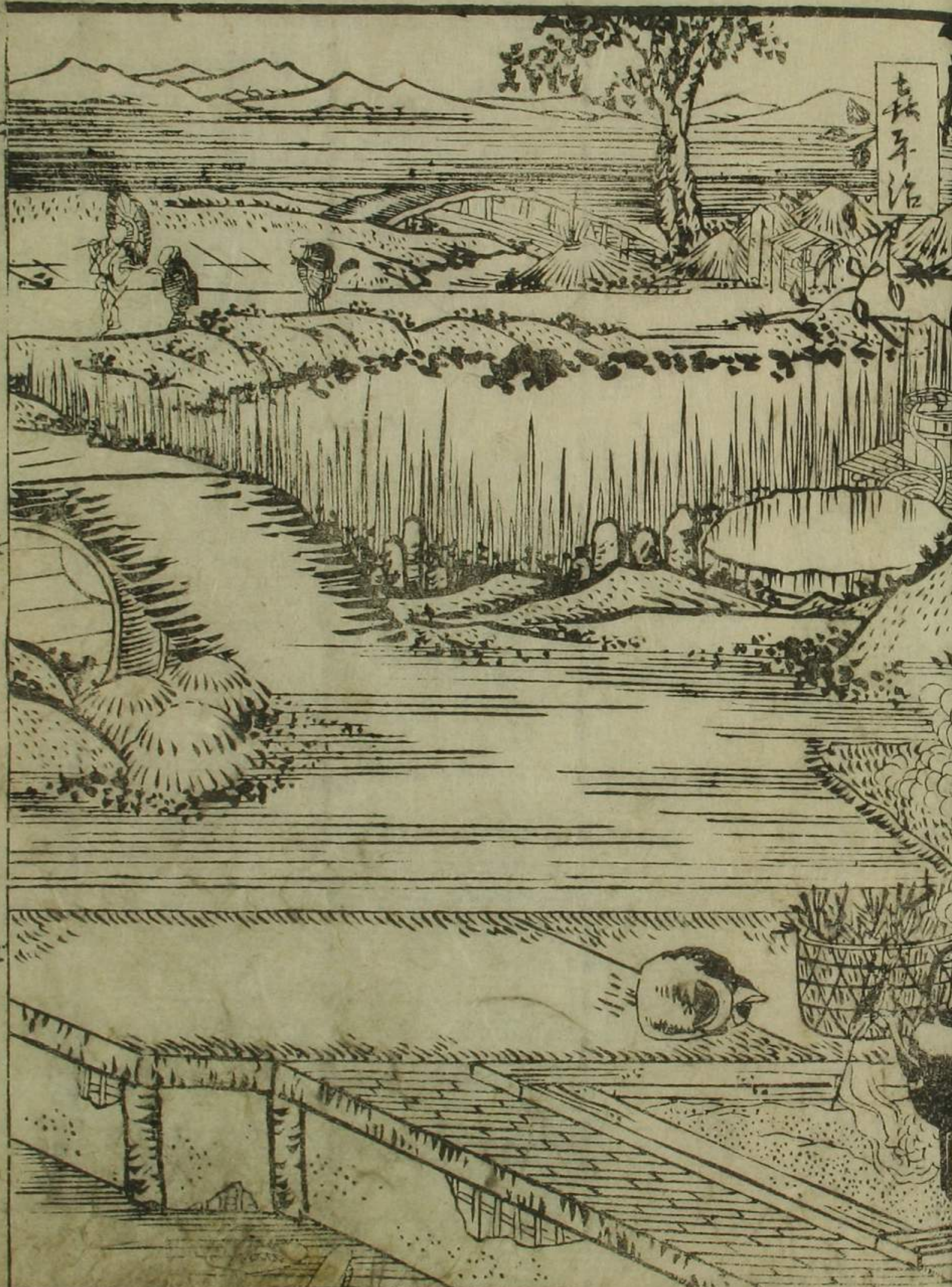
あまの嶽のあまの嶽をりてあ人の名や八とう老人と

あまの嶽のあまの嶽をりてあ人の名や八とう老人と

あまの嶽のあまの嶽をりてあ人の名や八とう老人と

あまの嶽のあまの嶽をりてあ人の名や八とう老人と

あまの嶽のあまの嶽をりてあ人の名や八とう老人と



吉原平治



おむめ

民治二年の春

新本
民治

川三

十六

平中へ自由ありて老人の病はあまひあつてわを
とめどもしむきまの以海切妻まては救脚トまは
うの仕合せありて下人とありて百人をかくはま
下まてしとそより職分の鏡とくもむけ家内
の用事つとあまむ親子の老もおとけてむやまて
かくて日数あまて秋平治がゆりて家内のも
近々鏡磨も出候へ老人の友ども又い望も
あまの方へ夜半よ出ふるお梅の重脚が来る
はあはれと
史とふはひとくあまらぐ秋平治が近隣へ夜半
はあはれと

徳兵衛やうき事な井野妻のそとふき一白ひていつぞ
いたやと思おももさぬや近所のかこの人目
今宵はとうとよの折ありし出まのものを
國へかへりあまきてもなげえ一母に
お出あまきてもあまきてもあまきても
とてゆりてあまきてもあまきてもあま
五あまきてもあまきてもあまきてもあま
あまきてもあまきてもあまきてもあま
こあまきてもあまきてもあまきてもあま
老人のむきと山家よあまきてもあまきても

身みのひらりひらり藤ふじはほきづくほきづくあつちあまきづくあまきづくはほき
 いちいちんん心こころざんざん娘むすめ一ひと筆ふでどどもあつちあつちくく世よ縁ゆかりはあつちあつちくく
 石いし塔たああ若わかととあつちあつちくく親おや所ところどどもあつちあつちくく口くち大おほと
 肉にく心こころあつちあつちくく親おや人ひとあつちあつちくくせせややととあつちあつちくく地ち心こころあつちあつちくく
 折おををあつちあつちくく親おやよよいいひひ入いるる女むすめ夫おとこあつちあつちくく友ともあつちあつちくく
 又またあつちあつちくく井いがが裏うらののあつちあつちくく飯いままくくあつちあつちくく
 又またあつちあつちくく色いろむむととあつちあつちくくいいつつふふ子こあつちあつちくく
 森もり平へい治ぢがが目めふふととあつちあつちくく男おとこのの子こととあつちあつちくくあつちあつちくく
 主ぬし脚かふふ白しろひひををあつちあつちくく今いまのの我わが職しやくのの鏡かみととあつちあつちくくあつちあつちくく
 世よののあつちあつちくくあつちあつちくく他ほかののあつちあつちくくあつちあつちくくあつちあつちくく

ありありくくはは家いへををほほぐぐべべととあつちあつちくくあつちあつちくくあつちあつちくく
 あつちあつちくくあつちあつちくくあつちあつちくくあつちあつちくくあつちあつちくく
 かかももあつちあつちくくとと表おもて向むかひひののむむままししををあつちあつちくく飯いのの親おや子こあつちあつちくく
 ととあつちあつちくく家いへ業わざををつつととあつちあつちくく肉にくあつちあつちくくあつちあつちくく
 ととあつちあつちくくあつちあつちくくあつちあつちくくあつちあつちくくあつちあつちくく
 心こころあつちあつちくくあつちあつちくくあつちあつちくくあつちあつちくくあつちあつちくく
 世よににあつちあつちくくあつちあつちくくあつちあつちくくあつちあつちくくあつちあつちくく
 のの家いへ業わざあつちあつちくくあつちあつちくくあつちあつちくくあつちあつちくくあつちあつちくく
 かかつちつちあつちあつちくくあつちあつちくくあつちあつちくくあつちあつちくくあつちあつちくく
 あつちあつちくくあつちあつちくくあつちあつちくくあつちあつちくくあつちあつちくく

